

令和5年度 第1回江別市かわまちづくり協議会 会議録（要点筆記）

日 時：令和5年10月2日（月） 14：00～16：30

場 所：江別市中央公民館3階 研修室2・3号

出席委員：小篠隆生会長、鴻野徹副会長、林敏昭委員、柏村章夫委員、天井一斗委員、林匡宏委員、境珠美委員、武藤静香委員（計8名）

欠席委員：なし

事務局：経済部長、経済部次長、経済部企業立地推進室長、経済部商工労働課長、企画政策部都市計画課長、建設部管理課参事、建設部都市建設課長、建設部建築住宅課長、建設部土木事務所治水課長、教育部郷土資料館長、建設部管理課主幹、建設部土木事務所治水課主幹、経済部商工労働課主査（1名）、他2名

アドバイザー：江別河川事務所（4名）

傍聴者：1名

会議概要

（開会）

- 1 委嘱状交付
- 2 市長挨拶
- 3 委員の紹介
- 4 会長及び副会長の選出
- 5 議事

(1) 報告事項

ア かわまちづくり協議会の目的（説明：事務局 商工労働課）

イ これまでの検討経過（説明：事務局 商工労働課）

(2) 協議事項

ア かわまちづくりの進め方（説明：事務局 商工労働課）

- ・ 小篠会長：旧岡田倉庫の外構や付帯施設は、江別市と北海道開発局の両方に関わってくる話で、設計がどんどん進んでしまうと、当初の構想とずれてくる可能性が大いにある。ハード設計に係る調整や打合せテーブルを今年度のスケジュールに反映してほしい。

イ 旧岡田倉庫の利活用方法（説明：事務局 商工労働課）

- ・ 林匡宏委員：この協議会ではどこまで話をして、どのような意見が求められるのか。
- ・ 小篠会長：協議会での決定事項が最上位となり、運営ワーキングに対する検討の指示や方向性の誘導が協議会の重要な役割となる。
- ・ 林匡宏委員：行政は、旧岡田倉庫の利活用方法の案についてどのように思っているのか。かわまちづくり計画や都市計画マスタープラン等、関連計画を踏まえた方向性のような話が聞けると、協議会での議論の参考になると思う。
- ・ 商工労働課主査：旧岡田倉庫は陸と川をつなぐ建物であったという歴史的な位置付け

を踏まえ、拠点施設として人や街、川をつなぐことを基本に活用方法を考えていくのはとても良いと考えている。かわまちづくり計画としては、旧岡田倉庫をまちづくりの拠点機能として位置付けており、まずは地域に愛され、その上で外部の観光客に愛される街にしていくのが基本的な目標と考えている。また、イベント等の不定期利用だけではなく、色々な用途を連携させた日常的な利用ができて常に開いているような施設になれば良いと考えている。かつて雑穀の集積地として繁栄していた歴史もあることから、食をテーマに地域の歴史性や文化を発信し、日常的に地域の方に楽しんでもらえるような施設にして、観光拠点やイベント等の多目的利用を行っていくイメージが良いと考えている。

- ・ 林匡宏委員：旧岡田倉庫で民間事業者が何をやっても良いという訳ではなくて、行政から随時アドバイスをもらいながら、公共性と事業性の間を考えていく必要がある。協議会がそのような場になっていくと、とても有意義だと思う。現時点では、運営ワーキングで収支まで追い切れていないので、今後具体的な検討を重ねていけると良い。
- ・ 小篠会長：事業として具体化しお金の目標を立てることが、運営ワーキングの課題である。この点について、運営ワーキングで議論した結果を次回の協議会で提示してもらい議論していくことになると思う。
- ・ 境委員：旧岡田倉庫は、かつて入口が千歳川の方にあって、その後アートスペース外輪船になる時に中庭が見えるように入口を作り替えたと聞いたことがある。本当に千歳川の方にあったとすれば、本来の姿に戻すというコンセプトについて設計の段階でどのように考えられたのか。
- ・ 小篠会長：昔そうであったという話は聞いたことがあるが、会社通り側の出入り口を閉じる訳にもいかないため、設計で出入口は千歳川の方と会社通りの二か所設けている。現状で旧岡田倉庫の千歳川側の風除室や出入口が会社通り側よりも大きくなっているのは、演劇等を実施する際の機材搬入を考慮したため、やはり川側に倉庫が開いていることが大事である。ただ、今議論が空白になっているのは、多目的スペースの整備や利活用に関する部分である。過年度の勉強会では、多目的広場に屋外演劇のステージを設置して、千歳川の堤防の緩い斜面が観客席になるような意見が出ていたが、具体的な提案が欲しい。多少の設計変更になる可能性があったとしても、出た意見を旧岡田倉庫の外構の設計に活かしたいが、誰も何にも言わない状況にある。
- ・ 境委員：運営組織が決まってから具体的な話になると思うが、除雪や除草など維持管理に係るコストが気になる。過年度の協議会や勉強会に参加して、コンセプトやテーマがもう少しあっても良いとずっと思っていた。どうしても事業性や収益性の話になりやすいが、それを決めるためにも旧岡田倉庫を残すことがどういうことなのか決まっていた方が良い。この街や地域のことをもっと知らないとならぬ未来に残していけないと思う。先日、江別在住の絵本作家である手島圭三郎さんの絵本を読んだ時に、今生きている人が自然や生きることについて考えている情景が描かれていて、

そこに外輪船が重なり、ヒントを感じた。改めて、旧岡田倉庫利活用のコンセプトを皆で確認したい。

- ・ 小篠会長：前回のワーキンググループで、具体的ではないが、旧岡田倉庫を何かと何かをつなぐ拠点となるような場所にしていこうと定義した。旧岡田倉庫が川側に大きく開くことができ、川側に広場が整備される、あるいは土手の所もそれに付随した観覧席が設けられるようになれば、建物と川の空間がつながる。旧岡田倉庫の扉を開くと堤防の上にキッチンカーやイベントをやっている、その下で、キッチンカーで購入した物を座って食べるという情景に、旧岡田倉庫でやる活動もつながっていくという状況を作っていくのが大事だと思う。先ほど話に挙げた手島圭三郎さんは、環境や人、動物の関係を描いている絵本作家であり、人間としての暮らしと地域の環境の両方を見ていて、両方をつないだ目線で絵本が書かれている。意見があまり出てこないのも、現状では何となくの図面で、魅力的な活動ができる設計になっていない。協議会で議論していかないと、誰も何も手を動かさない。質問をするよりもこういう仕上げになって欲しいという提案をしていく必要がある。
- ・ 境委員：設計の意匠についても協議会から意見を出していくことになると思うが、運営組織が決まって内容を決めてからでは設計に間に合わない。設計に関するミーティングのような場はいつどのように開催されるのか。
- ・ 小篠会長：この点について、今後のスケジュールにハード整備の設計に関する検討の場が設定されていないので、反映してほしい。
- ・ 境委員：ハード整備の設計に関するワーキングの中で、旧岡田倉庫の運営だけでなく、歩きやすい構造や公園の代わりになるような場所の整備といった部分も議論していけたらと思う。
- ・ 小篠会長：近隣の保育園との一体的な利用も想定できるので、多目的広場が、子どもたちが遊べるような仕様になっていると良いのだと思う。それも“つなぐ”ということになる。また、旧岡田倉庫の普段使い、特に冬期の利用についても議論していく必要がある。例えば、運営費は市から一切出さず、その代わりとして家賃無償で市の施設を貸すという契約でいきたいという説明があったが、いつまでもボランティアで活動する訳にはいかないため、何か収益的なことをする、または市の別の事業を取り込んで予算化してもらおうといった方法を考えていかなければいけないと思う。
- ・ 林匡宏委員：冬期も旧岡田倉庫を開けておきたいと思うが、費用面で赤字になる可能性もある。その中で、年中開けるべきなのか、または最初は実現可能な範囲で開けていくのか。
- ・ 林敏昭委員：まずは収益がどうなるかを確認して、その上で地域としてどう協力していけるかも含めて考えていきたい。これまでのワーキングから新たなイベントも生まれており、地域住民も評価している。今後も継続してやってもらうことにより、地域も協力できると思う。
- ・ 小篠会長：この協議会とワーキンググループができたことで条丁目地区でのイベン

トが活発になったという背景があるが、これを継続的にやっていくためには、お金や人の労力も必要になってきてボランティアだけでは限界があるかもしれない。街を活性化させるための様々なイベントを考える拠点ができて、普段の活動は何を中心にするのか、必要となってくる活動資金をどうやって得るのかという話になり、それに応じて旧岡田倉庫を開ける期間が決まってくると思う。

- ・ 林匡宏委員：前回の運営ワーキングで観光案内ツアーに関する意見が出た。楽しいことが常にアップデートされて、条丁目地区で色々やりたいことが出てくるようなかわまちになると良い。今、えべつ観光協会が条丁目地区にあって、一部そういった機能を担い始めているようだが、観光を狭い目で捉えるのではなく、色々な人を受け入れるゲートのような感じで旧岡田倉庫があっても良いといった話を運営ワーキングでしていた。
- ・ 柏村委員：今ここで問われていることが本当に分かりにくくて、意見を出しにくい。今まで携わってきた方は経験と情報があって議論できるが、対象が広すぎて、今日初めて来た方には関わりが難しいと感じた。冬期の観光案内所の運営はとても厳しいと思う。現在、えべつ観光協会の予算をもとに自走に向けて動いている段階ではあるがなかなか難しいので、“つなぐ”をコンセプトにして、旧岡田倉庫に観光案内所を集約して一箇所運営するというのはとても良いアイデアだと思う。利活用に関する案が色々出ているが、実際にやるのは運営組織が決まってからになるので、どこまで話をすべきなのか難しいと思う。協議会で何のために実際やるべきことを協議していくのが少し分かりにくい。今後、運営組織を選定する際の指針になるというのであれば、なんとなくわかる。
- ・ 小篠会長：協議会は非常に中立な立場で見ているけれども、こういう形で運営組織を作ってほしいという意見をワーキングに付託する形になる。公募という形にならざるを得ない場合は、要件の中に協議会の意見を盛り込むことになると思う。公共性を重視するのであれば、行政が運営すれば良い。民間が公共性を重視した活動をしようとする、そこに運転資金を得ることができない状態になる。やはり、公共をどう捉えるかという話になると思う。民間組織が運営するとするならば、対価をもらいながら、自分たちがこの街で考える公共性を持った活動をしてもらうような形になると思う。“つなぐ”が私たちの一番大きなテーマであるので、何かと何かをつなぐということが必ず生まれなければいけない。“つなぐ”ということに対して骨を折ることが公共性の読み替えと言えれば良い。その辺のところを運営ワーキングにもう少し具体的に考えてもらえればと思う。行政は、公共性イコール平等性でやってきているので、それを変えるのは難しいが、かわまちづくりとして“つなぐ”に重点を置きながら活動する公共性というものは色が付いていても構わない。それが新たな公共性になってくると思う。
- ・ 林匡宏委員：協議会で議論していることが、公共性の担保になると思う。学識者と行政でやってきた公共性は、前時代のものである。色々な立場の人が街のためになることを確認し合う場が協議会で、ここに行政が参画することも大事で、江別市の

色々な部署が横断的に連携してかわまちづくりが進んでいくと思う。参加者がそれぞれの立場で、今ある計画をチェックしていけば、それが公共性になる。

- ・ 天井委員：キッチンカーを毎日呼んで、旧岡田倉庫は雨をしのぐために使う活用の仕方が一番良いと思う。外でキッチンカーができなければ旧岡田倉庫の中に入れば良いし、食品ロスもなくなるので、屋内外の利点を使い分けしていければ地元の子どもたちも来る上、将来的な企業誘致につながると思う。キッチンカーの事業者にある程度はお金を払ってもらい、それを継続的に事業費として充てていけば良いと思う。
- ・ 小篠会長：人が集まれる場所というのが大事で、皆さんに居場所を提供する空間として旧岡田倉庫があるという置き方や、旧岡田倉庫の中に運営組織のブースを作るといったことも想定できるかもしれない。その空間を使用する人たちに、運営に必ず参画してもらうことを条件にコワーキングスペースとして貸し出すといった組み立てもできると思う。キッチンカーに場所代や出店料を払ってもらい、出店料と売上の比率については協議し、出店料が運営側に入ってくるといった詳細な話をしていくことで、収支が見えてくる。こういった話を運営ワーキングに振って具体化していくのはありかと思う。これという形でなかなか決められないのが現状だが、“つなぐ”をキーワードにしながら人が集まってくるような場にするという形で整理するというのの一つある。
- ・ 武藤委員：旧岡田倉庫の利活用に関しては、定期的に人が集まるような施設にしたいが、やはりお金の面で難しいと思う。
- ・ 鴻野副会長：食と観光をテーマにするのは非常に江別らしいと思うが、旧岡田倉庫の利用方法によっては旧岡田邸の利用に規制がかかるのか。
- ・ 商工労働課主査：江別市としては、拠点である旧岡田倉庫の利活用方法をまず決めて、その利活用方法に応じて旧岡田倉庫や付帯施設にどういった機能が必要なのか、一体的に施設をどう運営していくかを検討した上で、旧岡田邸をどうしていくか考えていきたい。現時点で何か制限があるわけではない。
- ・ 小篠会長：今回の協議会で出た利活用をやるとしたら旧岡田倉庫だけで足りるのかという話に旧岡田邸が出てくる。江別市として残す残さないを決断できない状況にあるので、今回の協議会で出た利活用をやるために旧岡田邸が必要だという整理をする必要がある。
- ・ 境委員：旧岡田倉庫だけでは何もできないと皆さんも何となく思っていると思う。過去の協議会で旧岡田邸は老朽化していて危険だから新しいものにした方がいいという意見が出ていたが、うまい形で役割を持たせて、残せるところは残してほしい。街並みで考えると、汚くても古くてもそこにあったということをしてできるだけ残すのが、町の人がこの町に住んでいて良かったと思えるきっかけに絶対になる。議論は旧岡田倉庫中心だが、旧岡田邸とセットなので、うまく残す方向・理由を皆で議論していけたらと思う。保健所的に、中で全部調理して提供できるキッチンカーはまだ少ないので、どうしてもキッチンカーで提供するものを作る厨房が必要にな

る。旧岡田邸にシェアキッチンのような厨房を作ればキッチンカーも楽だし、そこに対してお金をもらえる。次回のワーキンググループで発表しようと考えていたのが、旧岡田邸にフードラボのようなものを作って、そこで作ったものを隣の旧岡田倉庫ですぐ販売ができる仕組みができればと思う。農家が収穫した野菜を持ち込んでそれをすぐ加工して、新鮮なうちに商品化したものがすぐ隣の旧岡田倉庫で江別の特産品として売れる。もともと倉庫なので、ショップではなく倉庫の中に備蓄しているようなイメージで販売するのも面白いと思う。旧岡田邸があることで、旧岡田倉庫の活用の幅は大きく広がると思う。

- ・ 柏村委員：お客さんが使う場所と自分たちが使う場所を考えると、旧岡田倉庫に付随した施設があった方が活用の幅が広がると思う。
- ・ 林敏昭委員：旧岡田邸の内部が心配で、補修等が出てくると行政と相談しながらになってくると思う。旧岡田邸と一緒に利活用していくのは大賛成なので、協力したい。
- ・ 林匡宏委員：ソフトの充実だけでなくハードもすごく大事で、機能的に旧岡田倉庫と旧岡田邸が一体であるべきだという話だと思うが、2つの建物と川が一体となってソフト・ハード的にデザインされているということ、かわまちづくりの最大の特徴にしていく必要がある。全体のランドスケープデザインの視点からデザイン調整をしていくことも重要だと思う。
- ・ 小篠会長：設計の途中段階での協議会への相談や全体の設計の調整を事務局にお願いしたい。説明資料では土堤がラフに描かれていて、あまり細かい設計が反映されていないようなパースになっているが、この辺りをどう見せるか。樹木を伐採する予定と聞いているが、人が集まるということを考えると緑陰はあった方がよいと思うため、残せるところは樹木を残す方向にしてほしい。川側の風景は、旧岡田倉庫の横にあった大きな緑の塊になっている樹木で結構作っていた。本日の協議会のまとめとして、人が集まれる場所やシェアオフィスの何かここでやってみようという人たちが入れるスペース、運営組織の拠点、飲食スペースとしてどうするか等に関する意見が出たので、それをベースに運営ワーキングで議論し、協議会で決定していきたい。運営組織については運営ワーキングでさらに具体的に検討してもらいたい。設計施工の調整は必ず協議会を通してやっていただきたい。

(協議結果)

- (1) 次回ワーキンググループで、運営団体が旧岡田倉庫を通年で利活用するにあたりどのくらいの費用を要するかの概略的な収支とどのような収益事業をやっていくのかの議論をしてもらい、それを基に協議会で話し合いを進めていく。
- (2) 市で設計しているものと開発局で設計しているものの調整は協議会を通してやってもらいたい。

6 その他

- ・ 天井委員：10月8日に旧江別小学校跡地でバブルファンタジーというイベントを実施する。
- ・ 林匡宏委員：10月14日に運営ワーキングから派生したシン・エベツというイベントを石狩川・千歳川合流点の高水敷で実施する。吹奏楽部の演奏といった外での催しものや休憩スペースもあり、アクティブに一日中遊べる。
- ・ 小篠会長：運営組織は、こうしたバラバラで運営しているイベントを組み立てていくことも重要な課題になる。

(閉会)

以上